

特集 ● 「中京区社会福祉協議会法人化10周年記念」

～いっしょにやりまひょ やさしいまちづくり～

社会福祉法人京都市中京区社会福祉協議会

写真で見る 10年間の活動のあゆみ

- 平成6年度**
 - 4月1日付で京都府知事の認可を得て社会福祉法人格を取得
 - 賛助会員制度の創設
 - 各学区社会福祉協議会に町委員制度の設置
 - 阪神淡路大震災復興興産事務所への支援活動
- 平成7年度**
 - 賛助会費の徴収開始
 - 阪神淡路大震災義援金基金活動実施
 - 「中京区地域福祉センター」の開設
 - 「ふれあいいきいきサロン」事業開始
 - 「ふれあいいきいきサロン」協力ボランティアグループ「いきいき会」の結成
- 平成8年度**
 - 「中京区高齢者ミニデイサービス事業」の開始
 - 「中京区ボランティアセンター」の開設
 - 中京区高齢者ミニデイサービス事業協力ボランティアグループ「花みづきの会」の結成
 - 「学区社会福祉協議会実態調査」の実施
- 平成9年度**
 - 「手話ボランティア入門講座」の開催開始（平成14年度より「手話教室」と名称変更）
 - 「青少年の福祉体験事業」の開催開始
- 平成10年度**
 - 「中京区介護家族の会」の結成
 - 「介護保険シンポジウム」の開催
- 平成11年度**
 - 「中京区ネットワーキング」の設置
 - 中京区に高齢者施設を建設するための「建設促進委員会準備会」の設置
 - 「中京区介護ボランティア養成講座」の開催
 - 法人設立5周年記念事業の開催
- 平成12年度**
 - 健康すこやか学級事業（すこやかサロン）事業受託開始
 - 「点字入門講座」の開催開始
- 平成13年度**
 - 地域福祉活動計画策定委員会設置（～平成14年度）
 - ボランティア国際年記念シンポジウムの開催
- 平成14年度**
 - 「中京区地域福祉活動計画」策定
 - 区社協創設50周年記念事業の開催
 - 「高齢者サービス調整推進会議」の開催
 - 「子育て支援実務者会議」の開催（平成15年度より「子育て支援ネットワーク会議」と名称変更）
 - 専門機関と地域との連携により中京区初の子育てサロン「きっずばあくin明倫」開催開始
- 平成15年度**
 - 「中京福祉まつり」の開催開始
 - 学区主催による子育てサロン「きっずばあく～フリースペース～」開催開始
 - 「要約筆記入門講座」の開催開始
- 平成16年度**
 - 中京区ボランティア・市民活動連絡協議会「中京・ゆい」発足
 - 法人設立10周年記念事業の開催



事務所改築の起工式



法人設立記念式典



中京・ゆい



ユースアクション



ボランティア入門講座



高齢者ミニデイサービス



ふれあいいきいきサロン



介護家族の会



子育てを巡るネットワーク



地域福祉活動計画住民懇談会の様子

基調報告

「地域福祉活動計画を区民みんなのものにしていくために」

井岡 勉氏（中京区地域福祉活動計画推進協議会副委員長 同志社大学教授）



最初に、「中京区地域福祉活動計画（第一次プラン）」の特色について「多様性」をキーワードに説明があり、そしてこの第一次プランの達成状況や課題をチェックする機関として平成16年10月に立ち上がった「地域福祉活動計画推進協議会」の取組みについて報告されました。具体的には、「地域福祉活動計画推進協議会」内に設置された「作業委員会」がこれまで5回の作業を重ね、チェックシートで点検し、今回の区民フォーラムや福祉総合マップづくりに取り組んできたことが紹介されました。

このチェック過程で確認された第一次プランの成果としては、ボランティアグループの情報交換・連繋の場「中京・ゆい」が立ち上がったこと、子育て支援実務者ネットワークの組織化、福祉のまちづくりへの繋がりや交流、団体活動の活性

化などがあげられていました。また、区行政の地域福祉推進組織に区社協地域福祉活動計画推進協議会の作業委員会のメンバーが加えられ、公民協働で地域福祉を推進するようになったことも注目すべき点としてあげられました。

今後の課題としては、第一次プランをより実効力のある計画にするべく、地域福祉活動計画推進協議会で取り組んできたチェック作業活動を中京区内の団体・グループにも広げ、一つでも多くの団体・グループに第一次プランを自身の団体の活動にひきつけて考えてもらい、計画への意見を集約していくこと、とりわけ学区社協が中心となり地域住民がわがまちの福祉について語り合う「住民懇談会」を定期的に開催していくことが「計画を絵に描いた餅にするのではなく、実効力のある区民みんなの地域福祉活動計画につながる」と力説されました。

シンポジウム 「多様な人でできずく 中京区民の福祉のまちづくり」

- コーディネーター 井岡 勉氏
- シンポジスト
 - 沖野一晃氏（梅屋学区社会福祉協議会副会長）
 - 小林敬子氏（ふれあいほうむ「どうぞ」代表）
 - 木久 茂氏（京都府視覚障害者協会中京支部副支部長）

- 上村啓子氏（社会福祉法人京都光彩の会 京都市 朱雀工務施設長）
- 鍋谷一美氏（中京福祉事務所支援第一係長）



左から沖野氏・小林氏・木久氏・上村氏・鍋谷氏

団体と連携し 地域貢献・地域活性化に役立てれば……沖野一晃氏

新築された梅屋自治会館を拠点に昨年の6月から活動をスタートさせました。現在約1000世帯の住民が町内会に入り、各町内会での掲示や広報で告知しながら「梅屋すこやかサロン」の実施や、社協活動の内容を知ってもらうための「梅屋社協だより」を発行し、全世帯に配布しています。

過日作業委員会に参加し感じたことは、梅屋学区の活動の振り返りが出来たこと。また他団体の活動内容を知ったということ、そして中京区としての連携の重要性の認識です。今後は他団体の活動をさらに理解し、連携しあいながら地道に、地域貢献・地域活性化に役立てればと考えています。

ふれあい社会をめざし 市民が自主・自発的に発足させた会員制団体……小林敬子氏

7年前に立ち上げた『どうぞ』は、無償と有償の2輪で運営している非営利グループです。高齢者や障害者のお手伝いをと、3年前から配食活動を行っています。また、生協で「どうぞ喫茶」を出店させていただいたり、知的障害の子どもたちも「どうぞ」の作業部に通所しています。

有償ボランティアでは、ケアマネージャーから相談を受けることもあり、無理のない範囲で始められたらと思っています。少しずつですが、こうして活動が続けられるのは本当にボランティアさんのお陰。地域で、さらに多くの方々と繋がりを持ち、活動を広げていけたらと考えています。

たくさんの仲間を募りたいので 私たちの会の存在を伝えてほしい……木久 茂氏

毎年3回研修会を開き、また2回ほどホテルなどで食事会をしています。研修会では、警察や消防署の方々に交通についての注意点を教えてもらったり、行政から福祉に関する情報提供をしてもらったりしています。ただ、非常に会員が少

ないのが悩みの種で、身体障害者手帳を持っておられる方にお声掛けしようと役所へ行くと、個人情報に公にできないとのことで困っています。本日ここにおられる皆さんに、そういう方がいらっしゃったら、障害者団体の存在をお知らせいただき、私たちと一緒に楽しく活動できるよう促していただければ幸いです。

こころの健康づくりのために 地域との連携を図り役割を果たしたい……上村啓子氏

当施設では、鬱や統合失調症など精神に障害のある方に支援を続けています。他分野に比べていろんな施策・福祉が遅れていますが、利用者はお年寄りにお弁当をお届けしながら心のふれあいを大切にする仕事などに取り組み、就労にむけて頑張っています。開設して8年が過ぎましたが、まだまだ地域や福祉活動について知らないこと、参加できていないことが、たくさんあるように感じます。こころの健康づくりに役立てるよう、地域との連携を密にしながら、福祉施設としての役割を果たしていきたいと考えています。

地域の皆様と共に知恵を絞って 支援の輪を広げたい……鍋谷一美氏

中京区子育て支援ネットワークは、一昨年の12月、プログラム型子育てサロン「きっずばあくin明倫」を立ち上げました。少子化が進む堀川通から東側の地域では、近年大型マンションの建設で、若い世帯の住民が急増。子育ての孤独化や人との出会いの場を求める声が保健所や保育園などで浮き彫りになり、「まずは行動」と民生児童委員会、児童館、保健所、各保育所、社会福祉協議会、子ども支援センターなどが協力して取組んだものです。それ以降、身近な地域における学区主催のフリースペース型きっずばあくの立ち上げを推進し、現在、6つの学区で子育てサロンが開催されています。今後も地域の皆様と共に知恵を絞って、支援の輪を広げたいと考えています。